

第3期中心市街地活性化プログラムの令和4年度のフォローアップについて

1 第3期中心市街地活性化プログラムの概要

(1) 目的

第3期中心市街地活性化プログラム（以下、第3期プログラム）は、各種取組の実施主体となる商店街や商工団体、市民団体等と支援機関、行政機関が、長期的に目指すまちの姿とプログラム期間の目標、基本方針などを共有し、中心市街地の機能や魅力の維持・向上に取り組むことを目的とする。

(2) 位置づけと期間

ア 位置づけ

第3期プログラムは、上越市総合計画を上位計画とし、各種まちづくり計画と連携し、中心市街地の活性化に向けた取組を推進するための指針と位置付ける。

イ 期間

第3期プログラムの期間は、令和2年4月から令和7年3月末までの5か年とし、将来像の実現に向けた段階的な取組を推進する。

※計画期間当初からコロナ禍に見舞われたことにより、取組が思うようにできない状況が続いたため、令和4年6月に計画期間の終期を令和5年3月末から令和7年3月末に延長した。

(3) 第2期中心市街地活性化プログラムからの主な変更点

- 居住人口減少、高齢化等に伴い課題は多様化しており、従来のイベント中心のプログラムの成果が、一過性の「まちの賑わい」創出にとどまることから、課題対応型のプログラムへの転換を図る。
- 高田地区と直江津地区は、長い年月をかけて蓄積された都市、居住、生活、経済等の機能、歴史・文化などの違いから、現在のまちの姿、取り組むべき課題も異なるため、目標等を地区別に定める。
- それぞれの既存ストックをいかし、高田地区は「上越地域の中心都市として再生」、直江津地区は「上越地域の交流・交易の中心」を目指す。

ア 将来像

長期的に目指すまちの姿「将来像」を新たに設定する。

高田地区	直江津地区
暮らしたい、訪れたい、働きたい、城下町・高田	人、モノ、情報が出会い交流する、港町・直江津

イ 3年間の目標

- 高田地区は、都市、居住、経済等の機能や歴史的・文化的資源の有効活用を図る。
- 直江津地区は、集客が期待できる拠点施設の利用者が街なかを楽しむ仕掛けづくりに取り組む。

第2期プログラム	第3期プログラム	
	高田地区	直江津地区
街のにぎわいの向上	つかいたいまち・高田	めぐる！楽しむ！直江津

ウ 目標指標

人口減少、高齢化、車社会などの社会経済情勢とプログラムの実施期間を考慮した上で達成可能なものとし、地区別の3年間の目標に合わせて設定する。

地区	第2期プログラム	第3期プログラム
高田地区	①歩行者交通量の10%増加 【6,923人 → 7,600人】	①高田区居住者の日常の買物割合 【6.3% → 6.3%以上】
	②空き店舗数の減少 【14件 → 11件】	②主要な拠点施設の年間利用者数の増加 【1,128,338人 → 1,129,000人以上】
	③イベント集客人数の増加 【189,288人 → 208,000人】	③街なか居住の促進に向けた機運の醸成 【住民の機運が高まった状態】
直江津地区	①歩行者交通量の10%増加 【2,409人 → 2,650人】	①直江津区居住者の日常の買物割合 【19.2% → 19.2%以上】
	②空き店舗数の減少 【8件 → 6件】	②直江津区非居住者の地区内買物割合 【29.8% → 29.8%以上】
	③イベント集客人数の増加 【205,800人 → 226,100人】	③主要な拠点施設の年間利用者数の増加 【953,404人 → 954,000人以上】

エ 基本方針

3年間の目標と連動し、イベントを中心とした賑わい創出から、産業振興と街なか居住の促進を2本柱として当面の課題に対応する取組を推進するための基本方針に見直す。

第2期プログラム	第3期プログラム	
	高田地区	直江津地区
①商店街の維持・活性化	①商店街や商店の魅力と利便性の向上	①拠点施設の来街者に街なか回遊を促す仕掛けの充実
②地域資源を活かしたまちづくりの推進	②エリア間の連携強化	②街なかの受け入れ環境の整備
③次代につなぐ担い手の育成	③居住環境の改善	③居住環境の改善に向けた検討

オ 長期的課題の明確化

中心市街地活性化に向けた課題のうち「3年間の取組のみでは解決が困難なもの」と、「当面取り組むべきもの」を区分することにより、商店街や商工団体、市民団体等と取組の優先度について、認識を共有する。なお、長期的な課題については、継続的な取組の例示も行う。

【まちの力を維持・強化するため長期的に取り組む事項（高田地区・直江津地区共通）】

- 地区内居住人口の維持・増加
- 商業機能の維持・拡充
- 空き地、空き家、空き店舗の解消
- 公共交通の利便性の向上
- まちづくり会社の機能強化

2 目標指標の達成状況

【高田地区】

指標①：令和4年度において高田地区居住者が「本町3～7丁目、幸町で週2,3回以上買物する割合」を6.3%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

達成状況：現況値なし（令和6年度に調査実施予定）

指標②：令和4年度において主要な拠点施設^{※1}の年間利用者数の合計を1,129千人以上とする。

※1 町家交流館高田小町、高田まちかど交流館、あすとぴあ高田、イレブンプラザ

達成状況：下記の表のとおり

平成30年度	令和4年度
1,128,338人	911,855人（達成率：80.8%）

指標③：「まちなか居住促進に向けた住民の皆さんの機運が高まった状態」を目指す

達成状況：まちなか居住推進事業事務局（市）において、高田区内のモデル候補地区に選定された5つの町内会（仲町6丁目、本町6丁目、本町7丁目、大町5丁目、西城町4丁目）に対し、良好な住環境の整備や街の魅力向上を図るため、空き家の片付け支援や町家のリフォーム支援、雁木通りの街なみ形成支援をした。

【直江津地区】

指標①：令和4年度において直江津地区居住者が「直江津駅前、中央、西本町、五智で週2,3回以上買物する割合」を19.2%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

指標②：令和4年度において直江津地区に居住していない市民が「直江津駅前、中央、西本町、五智で買物する割合」を29.8%以上とする（令和元年度調査時と同水準以上）。

達成状況：現況値なし（令和6年度に調査実施予定）

指標③：令和4年度において主要な拠点施設^{※2}の年間利用者数の合計を954千人以上とする。

※2 直江津学びの交流館、ライオン像のある館、エルマール専門店街（直江津SC内）

達成状況：下記の表のとおり

平成30年度	令和4年度
953,404人	913,722人（達成率95.8%）

3 現状に対する評価と今後の方向性

- ・商工団体や市民活動団体（高田地区22団体、直江津地区18団体）を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和4年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で22団体中22団体（100%）、直江津地区で18団体中13団体（72%）であり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体が大多数となった。
- ・取組事例としては、高田地区では、プレミアム付商品券の発行や季節に合わせたイベントを実施して誘客を図ったほか、雁木の柱の色塗りなど、景観の整備にも取り組んだ。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」の発行や「直江津まちなか回遊促進プロジェクト」Webサイトの開設、プレミアム付商品券発行事業、直江津地区で開催された各団体のイベントでの連携など、直江津の魅力発信とまちなか回遊の促進に取り組んだ。
- ・一方で、「取り組んでいない」と回答した団体もあり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。この点は、他の団体においても今後の課題としている。

- ・令和5年度に取り組みたいことや検討していることとしては、高田地区と直江津地区の回遊を促す事業の実施やコロナ禍により取組の規模の縮小または中止していたイベントをコロナ禍前の規模で開催したいという回答があった。
- ・また、中心市街地の活性化に向けた意見として、テナント誘致や空き店舗解消に向けた支援を求めるものや、季節ごとのイベントに合わせて商店街へ誘客する企画を行いたいとの回答があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

○参考：令和4年度の取組（アンケート調査の回答から一部抜粋）

団体名	取組内容
本町3.4.5商店街振興組合連合会	プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用して季節に合わせたイベントを行った。また、Instagramの投稿を強化し、フォロワー数の増加につなげた
越後高田・雁木ねっとわーく	「雁木の魅力写真コンテスト」を開催し、多くの場所で写真の展示を行い、雁木の魅力を市内外に発信した
上越オープンガーデン愛好会	「オープンガーデンと花めぐり」と「遠足ガーデン」を実施し、花を介した人々の交流を促し、美しいまちづくりに貢献した。
街なみ FOCUS	雁木柱の色塗りや雁木上の冷暖房室外機に格子を取り付けるなど景観保全のための作業を行った
直江津まちなか回遊促進プロジェクト実行委員会	当プロジェクトのWebサイトの開設、街なかのバス停にWebサイトへアクセス可能なQRコードの設置による街なか回遊の促進
なおえつ うみまちアート実行委員会	うみまちアート2022の開催

○令和5年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内容
高田駅前通り雁木の会 高田駅振興会	高田・直江津商店街の連携によるトキめき鉄道を利用したスタンプラリー
(株)イレブンビル	広場を有効活用した、ジャズやポップ等の音楽演奏会イベント
直江津駅前商店街振興組合	「互の市」の復活を契機とした、まちなか回遊や街の情報発信等

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内容
高田本町まちづくり(株)	空き店舗等の中心市街地遊休資産の活用に向け、出店相談窓口の設置や十分な空き店舗調査が可能な予算編成
高田駅前通り雁木の会	季節ごとのイベント（春の観桜会、夏の観蓮会、秋の越後・謙信SAKEまつり、冬のレルヒ祭）に合わせた本町商店街への観光客の誘導企画
JR東日本OB会直江津支部	D51 レールパークや水族博物館の入場券に商店街割引券や福引券を添付するなど、まちなか回遊を促進する施策を展開する。また、直江津の特徴ある名物を作り出す。